

平成27年度 第1回

杉並区区政モニターアンケート

集計結果報告書

「性的マイノリティ（性的少数者）について」



平成27年7月実施

杉並区総務部区政相談課

「性的マイノリティ(性的少数者)について」 (平成27年度第1回区政モニターアンケート)

調査の概要

1 調査の目的

近年、性的マイノリティ(性的少数者)について、マスメディアで取り上げられることが増えてきています。2015年4月に電通が行った調査によると、13人に1人(7.6%)が性的マイノリティの当事者であるとの結果が出ています。

性的マイノリティとは、一般的にレズビアン(女性を好きになる女性)、ゲイ(男性を好きになる男性)、バイセクシュアル(男性も女性も好きになる人)、トランスジェンダー(性同一性障害など、身体と心の性が一致しない人)など、多様な性の方々を意味します。

つきましては、今日的な課題の一つである性的マイノリティに対する問題について、今後の啓発事業の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力をお願いします。

※このアンケートの問いに関する内容についてのお問合せは、区・区民生活部管理課 男女共同・犯罪被害者支援係(電話3312-2111 内線3756)までお願いします。

2 調査の内容

「性的マイノリティ(性的少数者)について」

3 調査期間

平成27年7月15日～ 7月28日

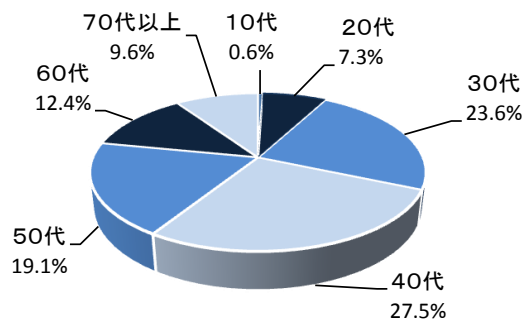
4 回答者数

178 人

5 回答者構成

単位:人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	男女比
男性	1	6	19	21	17	13	9	86	48.3%
女性	0	7	23	28	17	9	8	92	51.7%
合計	1	13	42	49	34	22	17	178	100.0%
	0.6%	7.3%	23.6%	27.5%	19.1%	12.4%	9.6%	100.0%	



6 集計・分析にあたって

(1) 各項の初めにあるNは、回答者数を表しています。

(2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

◆基本事項についてお聞きします。(すべての方)

問1. あなたの戸籍上の性別をお答えください。(○は1つ)

※ 結果については、上記『調査の概要 「5 回答者構成」』のとおり

問2. あなたの年齢は次のうちどれですか。(○は1つ)

※ 結果については、上記『調査の概要 「5 回答者構成」』のとおり

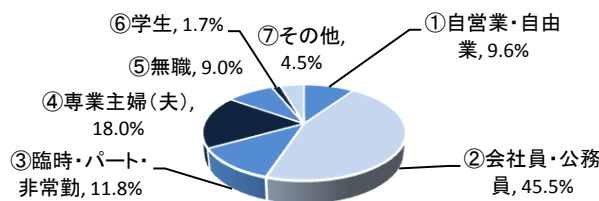
問3. あなたの職業をお答えください。(〇は1つ)

N=178

		全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
		人数	割合	男性	女性				
① 自営業・自由業	17	9.6%	男性	14	0	4	6	4	
			女性	3	0	1	1	1	
② 会社員・公務員	81	45.5%	男性	50	5	32	13	0	
			女性	31	3	22	6	0	
③ 臨時・パート・非常勤	21	11.8%	男性	6	0	2	3	1	
			女性	15	1	9	5	0	
④ 専業主婦(夫)	32	18.0%	男性	1	0	0	0	1	
			女性	31	1	16	8	6	
⑤ 無職	16	9.0%	男性	9	0	1	5	3	
			女性	7	1	0	5	1	
⑥ 学生	3	1.7%	男性	2	2	0	0	0	
			女性	1	1	0	0	0	
⑦ その他	8	4.5%	男性	4	0	1	3	0	
			女性	4	0	3	1	0	
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9	
			女性	92	7	51	26	8	

※「⑦その他」…

一般社団法人職員・契約社員・フリーの編集デザイナー・会社役員・司法書士事務所勤務(司法書士有資格者)・私立大学教員



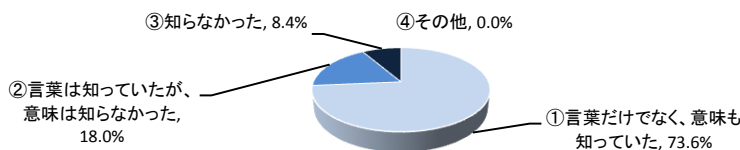
◆ 「性的マイノリティ」及び「LGBT」についてお尋ねします。

性的マイノリティとは、性的少数者を指し、LGBTなど性のあり方が多様な人を意味します。LGBTとは、「レズビアン (Lesbian・女性の同性愛者)」・「ゲイ (Gay・男性の同性愛者)」・「バイセクシュアル (Bisexual・両性愛者)」・「トランスジェンダー (Transgender・性同一性障害など)」の4つの内容の頭文字を取ったものです。

問4. あなたは、「性的マイノリティ」という言葉を知っていましたか。(〇は1つ)

N=178

		全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
		人数	割合	男性	女性				
① 言葉だけでなく、意味も知っていた	131	73.6%	男性	62	6	30	22	4	
			女性	69	6	39	19	5	
② 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	32	18.0%	男性	17	1	7	5	4	
			女性	15	0	8	5	2	
③ 知らなかった	15	8.4%	男性	7	0	3	3	1	
			女性	8	1	4	2	1	
④ その他	0	0.0%	男性	0	0	0	0	0	
			女性	0	0	0	0	0	
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9	
			女性	92	7	51	26	8	



「性的マイノリティ」という言葉の認知度について尋ねたところ、回答のあった178人中131人(73.6%)が「言葉だけでなく、意味も知っていた」、32人(18.0%)が「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と回答した。「知らなかった」は15人(8.4%)という結果となった。

(【問4】で①または②と回答した方にお尋ねします。)

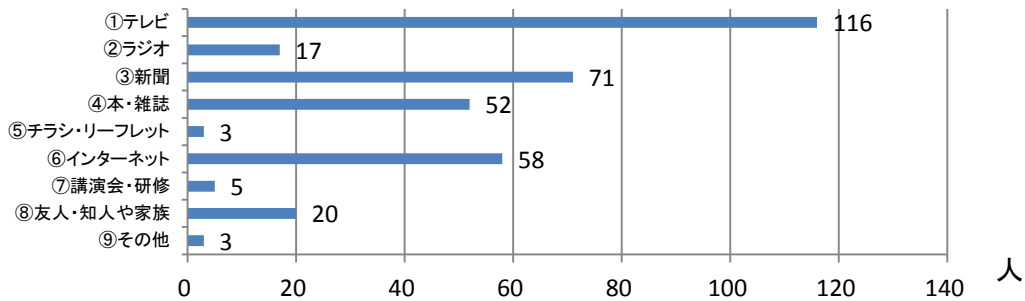
問5. あなたは、「性的マイノリティ」という言葉を何から知りましたか。(複数回答可)

N=163

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① テレビ	116	33.6%	男性	56	4	23	21	8
			女性	60	5	37	14	4
② ラジオ	17	4.9%	男性	7	0	4	0	3
			女性	10	1	6	0	3
③ 新聞	71	20.6%	男性	38	3	13	16	6
			女性	33	4	10	14	5
④ 本・雑誌	52	15.1%	男性	28	5	11	7	5
			女性	24	4	11	7	2
⑤ チラシ・リーフレット	3	0.9%	男性	3	1	1	1	0
			女性	0	0	0	0	0
⑥ インターネット	58	16.8%	男性	32	4	20	8	0
			女性	26	3	18	5	0
⑦ 講演会・研修	5	1.4%	男性	3	1	1	1	0
			女性	2	1	1	0	0
⑧ 友人・知人や家族	20	5.8%	男性	11	2	7	0	2
			女性	9	1	7	1	0
⑨ その他	3	0.9%	男性	3	0	3	0	0
			女性	0	0	0	0	0
合計	345	100.0%	男性	181	20	83	54	24
			女性	164	19	90	41	14

※「⑨その他」…

・海外ドラマ ・書籍 ・デモや街頭で聞いた ・大学時代の授業



【問4】で「言葉だけでなく、意味も知っていた」または「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」と回答した方に「性的マイノリティ」という言葉を何から知ったかを尋ねたところ、「テレビ」(116人)が一番多く、2番目に「新聞」(71人)、次いで「インターネット」(58人)、「本・雑誌」(52人)の順となった。

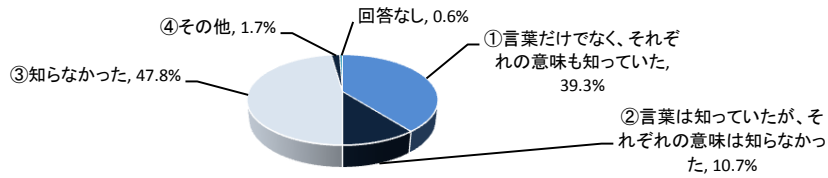
問6. あなたは、「LGBT」という言葉を知っていましたか。(〇は1つ)

N=178

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① 言葉だけでなく、それぞれの意味も知っていた	70	39.3%	男性	35	3	12	18	2
			女性	35	5	18	9	3
② 言葉は知っていたが、それぞれの意味は知らなかった	19	10.7%	男性	9	0	6	1	2
			女性	10	1	6	2	1
③ 知らなかった	85	47.8%	男性	41	4	21	11	5
			女性	44	1	26	14	3
④ その他	3	1.7%	男性	1	0	1	0	0
			女性	2	0	1	1	0
※回答なし	1	0.6%	男性	0	0	0	0	0
			女性	1	0	0	0	1
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9
			女性	92	7	51	26	8

※「④その他」…

・各名称と意味は知っていたが、頭文字を取った言葉とは知らなかった。
 ・LGBTとまとめていう言い方は知らなかったが、それぞれ個々の意味は知っていた。
 ・各々の意味は知っていたが、このように絡めていう言い方は初めて聞いた。
 ・LGBTはネットでの情報から知り、ネットで調べたのは数年前だと思う。



「LGBT」という言葉を知っていたかを尋ねたところ、「知らなかった」が約半数(47.8%)と一番多く、次いで約4割(39.3%)が「言葉だけでなく、それぞれの意味も知っていた」と回答し、「言葉は知っていたが、それぞれの意味は知らなかった」は約1割(10.7%)という結果となった。

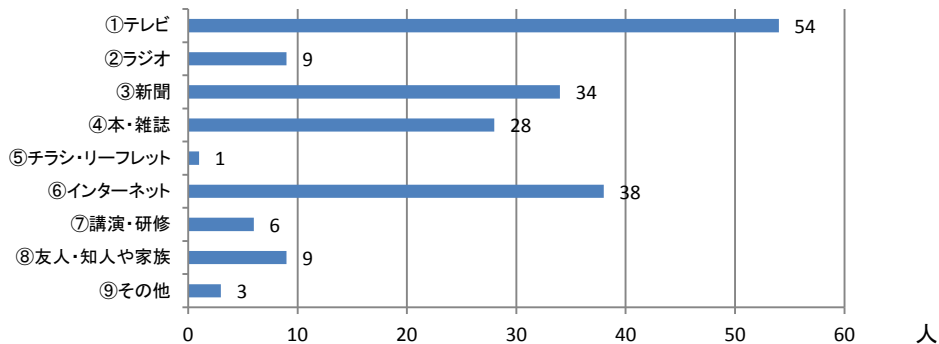
(【問6】で①または②と回答した方にお尋ねします。)

問7. あなたは、「LGBT」という言葉を何から知りましたか。(複数回答可)

N=89

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① テレビ	54	29.7%	男性	23	2	9	9	3
			女性	31	5	17	7	2
② ラジオ	9	4.9%	男性	6	0	3	2	1
			女性	3	1	1	0	1
③ 新聞	34	18.7%	男性	18	2	3	9	4
			女性	16	4	7	4	1
④ 本・雑誌	28	15.4%	男性	12	3	4	2	3
			女性	16	3	8	4	1
⑤ チラシ・リーフレット	1	0.5%	男性	1	1	0	0	0
			女性	0	0	0	0	0
⑥ インターネット	38	20.9%	男性	19	3	11	4	1
			女性	19	3	14	2	0
⑦ 講演会・研修	6	3.3%	男性	4	1	2	1	0
			女性	2	1	1	0	0
⑧ 友人・知人や家族	9	4.9%	男性	3	0	2	1	0
			女性	6	1	4	1	0
⑨ その他	3	1.6%	男性	1	0	1	0	0
			女性	2	0	1	1	0
合計	182	100.0%	男性	87	12	35	28	12
			女性	95	18	53	19	5

※「⑨その他」具体的に
・会社の社内メール ・飲食店の客

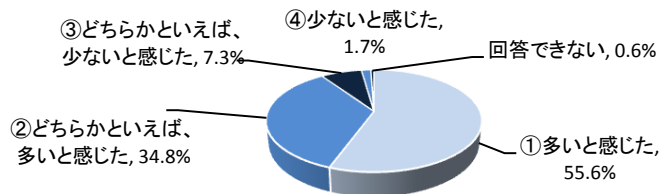


【問6】で「言葉だけでなく、それぞれの意味も知っていた」または「言葉は知っていたが、それぞれの意味は知らなかった」と回答した方に「LGBT」という言葉を何から知りましたかと尋ねたところ、一番多かったのは「テレビ」(54人)で、2番目が「インターネット」(38人)、3番目「新聞」(34人)、次いで「本・雑誌」(28人)という結果となった。

問8. 「13人に1人(7.6%)が性的マイノリティの当事者である」という調査結果について、あなたはどう感じましたか。(○は1つ)

N=178

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① 多いと感じた	99	55.6%	男性	54	4	24	20	6
			女性	45	2	25	14	4
② どちらかといえば、多いと感じた	62	34.8%	男性	24	1	13	8	2
			女性	38	4	19	11	4
③ どちらかといえば、少ないと感じた	13	7.3%	男性	6	1	2	2	1
			女性	7	0	6	1	0
④ 少ないと感じた	3	1.7%	男性	2	1	1	0	0
			女性	1	0	1	0	0
※回答できない	1	0.6%	男性	0	0	0	0	0
			女性	1	1	0	0	0
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9
			女性	92	7	51	26	8



「13人に1人(7.6%)が性的マイノリティの当事者である」という調査結果について、どう感じるかを尋ねたところ、「多いと感じた」(55.6%)が一番多く、「どちらかといえば、多いと感じた」(34.8%)を合わせると、9割を超える人が多いと感じているという結果となった。

問9. あなたは、周囲の人々が性的マイノリティについて冗談やからかいの言葉を使っているのを聞いたことがありますか。(○は1つ)

N=178

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① ある	70	39.3%	男性	36	6	19	8	3
			女性	34	4	23	7	0
② ない	108	60.7%	男性	50	1	21	22	6
			女性	58	3	28	19	8
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9
			女性	92	7	51	26	8

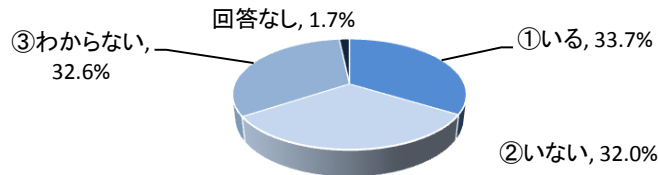


周囲の人々が性的マイノリティについて冗談やからかいの言葉を使っているのを聞いたことがあるかを尋ねたところ、約6割が「ない」(60.7%)と回答し、「ある」(39.3%)は約4割という結果となった。

問10. あなたの周りに性的マイノリティもしくはそう思われる人はいますか。(○は1つ)

N=178

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① いる	60	33.7%	男性	26	3	13	8	2
			女性	34	2	20	12	0
② いない	57	32.0%	男性	32	2	14	11	5
			女性	25	1	11	8	5
③ わからない	58	32.6%	男性	27	2	13	10	2
			女性	31	4	20	4	3
※回答なし	3	1.7%	男性	1	0	0	1	0
			女性	2	0	1	1	0
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9
			女性	92	7	52	25	8

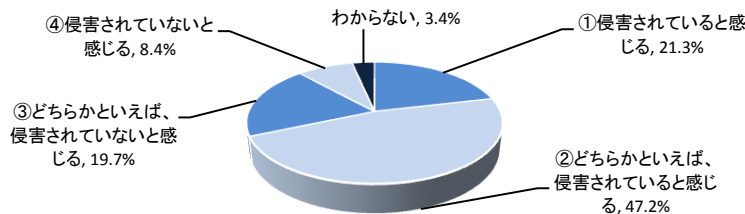


周囲に性的マイノリティもしくはそう思われる人がいるかどうかを尋ねたところ、「いる」(33.7%)、「いない」(32.0%)、「わからない」(32.6%)とほぼ3つに意見が分かれる結果となった。

問11. あなたは、性的マイノリティの人々の人権が侵害されていると感じますか。(○は1つ)

N=178

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
	人数	割合	男性	女性				
① 侵害されていると感じる	38	21.3%	男性	19	3	8	6	2
			女性	19	1	12	6	0
② どちらかといえば、侵害されていると感じる	84	47.2%	男性	35	3	15	14	3
			女性	49	3	30	13	3
③ どちらかといえば、侵害されていないと感じる	35	19.7%	男性	22	1	11	8	2
			女性	13	2	5	3	3
④ 侵害されていないと感じる	15	8.4%	男性	8	0	6	1	1
			女性	7	0	4	2	1
※わからない	6	3.4%	男性	2	0	0	1	1
			女性	4	1	0	2	1
合計	178	100.0%	男性	86	7	40	30	9
			女性	92	7	51	26	8



性的マイノリティの人々の人権が侵害されていると感じるかどうかを尋ねたところ、「侵害されていると感じる」(21.3%)と「どちらかといえば、侵害されていると感じる」(47.2%)を合わせ、68.5%の人が「侵害されていると感じている」という結果となった。

問12. 性的マイノリティ、LGBTについて、ご自由にお書きください。

・周囲にはっきりと該当する人がいないため、正直なところ、ピンとこない。しかし、今後は、しっかりと考えておかなければならない事柄だと感じている。

・日本人は性的マイノリティ、LGBTだけでなく、自分と見た目が違うとか考えが違っていると、よそ者扱いする傾向が強いと思う。このことは、世界的に見て知識が無く遅れている国とわかってしまうので、いろんな人、考えがあって良いという教育をしたり、差別のない社会になってほしいと思う。

・性的マイノリティの方に限らず不当な差別を受ける地域社会であってはならない。ただし、その不当な差別とは何かというのがわからないことが多い。適切な意識醸成・啓発が必要。コンセンサスの醸成の例としてセクシャルハラスメントの例があると思う。過去には、なにがセクハラなのかコンセンサスがなかったが、最近ではほぼ共通認識になってきたと思う。同じようなプロセスを踏んでいくのが良いと思う。米国の文化形成ではセクシャルマイノリティの方の感性が上質な文化の形成に寄与していると聞く。多文化を許容する社会が地域の競争力の向上にも結びつくのではないかと。また、情報はインターネットに多いが既存メディアからは、LGBTに関する情報は私はほぼ受け取っていないので、多メディアによる普及啓発が必要だと思う。

・もっと偏見を無くし、法的にも選択肢を増やすべきだと思う。彼らは何も悪いことをしていないし、ただでさえ今の日本の法制度の中で沢山の苦勞をしてきているので。

- ・世間の常識に照らし合わせて考えると変な印象を受けるが、個人の考えを否定するのはいけないうる。このような方々が住みやすい世の中になればと思っている。
- ・職場にLGBT応援チームがある。決して法人全体がLGBTに明るいわけではないが、勉強させてもらう機会があるので恵まれていると感じる。また、職場で「アライ」という言葉を学んだ。「LGBTを支援する人」という意味で、いわゆるストレートの人も含む。
- ・少なからぬ割合を有し市民権を持つ当事者のアイデンティティーを尊重するならば、培われてきた社会制度や法制面等々修正・改正していく事柄は多岐に渡るが、確実に前進させ社会として受容・適応していくことが肝要かなと思う。
- ・人格は尊重した方がいいと思う。それぞれ人には事情があると思う。
- ・「マイノリティだから」「人と違うから」というだけの理由で差別されるのは不当だと思う。それぞれが自分らしさを隠すことなく生活できる社会が良い。
- ・LGBTで苦しんでいる方々が、テレビでその苦悩を告白している番組をよく見かける。私はLGBTに対して、当初は受け入れることができなかったが、告白を聞いていると、切実に苦しんでいる様子がひしひしと伝わって来るし、受け入れてあげべきだと思うようになった。我々の世代の中学生向け保健教科書に当然のこととして記載されていれば、抵抗なく受け入れられたのではなかっただろうか、と考えてしまう。
- ・性的マイノリティについて、むかしから言葉は知っていても話題にのぼるものではなかったもので、彼らを理解するためにも開けた世の中になってきて良かったと思う。外国のテレビドラマの俳優さんがゲイであることを公表しているのを見ても、違和感はない。ただ彼らがどのような不便さを感じているのかを知ることが出来ないことは、世の中まだまだだと思う。性的マイノリティも障がい者もたくさんの不便・生きづらさを抱えていると思うので、どのような生きづらさがあるのか、どうしたらそれはなくなっていくのかを一緒に考えられるようにしていきたいと思う。偏見は無知から生じると思っている。だれもが同じ速度で同じことを感じる訳ではないこと私たちは知るべきである。
- ・最近ではテレビなどで有名人がカミングアウトすることにより、認知度は高まってきていると感じる。とはいえ、多元種国家のアメリカなどと比べると、日本は(性的な面に限らず)マイノリティの社会的存在価値が認められにくく保守的な傾向が強いと感じている。メディアや公共機関からの発信を強めることにより、ジェンダーフリーがあたりまえの社会になることを望む。
- ・テレビなどに出ている方の影響もあり、あまり侵害されているとは感じていない。自分自身特にその方たちへのマイナス印象は全くない。ただ、法律が追いついていない状態で、特にレズビアン・ゲイの方達の結婚についてはまだ認められておらず、彼らの自由・権利が守られていないので、今後その辺りについての法律改正が必要だと強く感じている。
- ・人間にはいろいろなタイプがあっても仕方ない。差別や虐待は好ましくないと思う。自分の家族だったら寛大に受け止めると思う。
- ・性的マイノリティという言葉自体、あまりよく思えない。
- ・婚姻する権利など報道されている部分を除くと人権の侵害という状況がどの程度発生しているのかわからないが、世間の理解度がきわめて低いために、不利益を被っている、被害を直接、間接的に受けることが多いように思う。
- ・人間は、複雑な生き物だと思う。生まれつきの性同一性障害の方もおられるとは思いますが、後天的に自身がそうであると考えようになった方もいるのでは無いだろうか。多様化し複雑化する現代において、従来の価値観に固執すると、排除される人々が増え、それが社会を不安定化する要因になるのかもしれない。共存が可能で、できるだけ多くの人々を社会が許容する事が、社会の安定に繋がるのではないかと考えている。
- ・自分自身が女性としての社会的な「おしつけ」に立ちを感じるがあることから、LGBTの方々の社会的な立場に疑問を感じる。やはりではないが「ありのままの自分」で生きることは、人として生きることの本領であると常々感じていて、多くの人たちがそのように生きられるようになればいいと思う。自分にはない感情なのでよくわからないが、男性は特に性的マイノリティへの嫌悪感を口にする人が多いと感じている。
- ・異性のパートナーを持つ人に比べて、法や社会的習慣や規則による保護や権利の面で非常に不利な立場に置かれていると思う。今後、社会的な規則の整備とその周知や啓発活動によって、性的マイノリティ、LGBTが特異なものであるという偏見が緩和されていけばと思う。
- ・個人の自由の範疇であり、もっと社会的に平等に扱われるべきだし、そのような教育も必要だと思う。
- ・同性愛であることをカミングアウトしたベルギーの元首相にはビックリしたが、その寛容な社会は素晴らしいと思う。日本の社会もそのような環境になれば良いと思う。
- ・知人でカミングアウトしている人がいるので、わりと身近に感じている。

・大学時代の知人と友人の職場の上司で、ゲイを公言している人がいる。交友関係や仕事についての支障はないように思える。本人はそれで気が楽なのかも知れないが、周囲の人が過敏になってしまっている。これは健全な社会かどうかは判断できない。いくら少数派といえども、彼らの主張が大幅に認められ、海外のように、男性同士・女性同士の結婚が一般化するのが寛容的な社会であると理解することは難しく思える。

・13人に1人の割合で存在するということは、その方々がもっと住みやすい環境にしてあげることや、電話相談窓口を設けるなど、工夫が必要なのではないかと思う。

・周りに明確に性的マイノリティと思われる人はいないが、13人に1人いるのであれば、気づかれないようにしている人は周りにいるのかもしれないと思う。気づかれないようにしている時点で、人権は侵害されているのかもしれないと感じた。

・“一般的に”とか“常識的に”という言葉が多用し、世間体にこだわり、人と同じであろうとする昔ながらの日本人気質があり、だいぶゆるくなってきたとはいえ、性差別や性区分における考えの凝り固まっているこの国で自分の性に疑問を持った人は、かなり辛いと思う。見境なく、いきなり襲い掛かってくるわけでもない。もし周りにいたら、自分に危害が及ぶかもと考えるのは、いささか自意識過剰の反応に思える。同じ「人間」である。確かに種の保存の法則には反していて、少子化への影響を及ぼす可能性はある人々ではあるけど、たまたま、恋愛対象が同性というだけ。個人的には、「個性のひとつじゃないか。何がいけないんだ。」と思っているので、なぜ、迫害されなければならないのかが分からない。

・生まれ持った個性であり、周囲からの偏見を受けることなく生活できるべきだと思う。

・夫婦として生活しているながら、法律上の夫婦でないがために、不利益を被っている(賃貸契約や、医療機関での告知や面会等)ということはテレビ番組を通して初めて知った。性的マイノリティの権利を認めることで、性的マジョリティが被る不利益について語る人もいるが、的外れな指摘も多いように思う。性的マイノリティへの、生理的な好き嫌いはさておき、日本に国籍と戸籍をもつ一個人であれば、基本的人権を損なわない配慮は必ず必要であると思う。

・性的マイノリティーの方は身近にいる。(レズビアン、トランスジェンダー)周囲もそうだろうなと何となく気づいていても、本人から打ち明けられたことはない。個人の問題だから、特にこちらから何かアプローチをする必要はないと思う。ただ、社会のそういう方たちも、すごしやすく自分の事等を言いたいときに言えるような寛容な雰囲気であることは大切だと思う。また、同姓婚のようなものを(パートナー認定)認める社会であれば、いろいろな価値観・考え方、生き方の人が幸せになれる社会になると、私は考えている。

・世界の潮流と日本国内の意識のギャップを感じます。もっと自由に！！

・性的マイノリティは、それは個性であり憲法13条に保障されている個人の自由は侵害してはならないので、からかう等をもってのほかである。日本が早く人権先進国になることを望む。

・最近、芸能界でも増えて来ているのでよく目にするし、身近にそういう人がいたとしても、特にいやな印象は受けない。

・小学校の頃、ラジオやテレビで見聞きしたゲイやおカマと言われる人々は、社会のアウトサイダー的な扱いで、少し汚いイメージだった。今は、手術や化粧の発展により女性よりキレイと思う人も増え、そういう人もいるのだと思う。しかし、身近にそういう人がいたら、やはりどういふ風に接したらいいか悩むと思う。ただ、同性愛同士の結婚や職場での立場etc. 社会で当たり前のように生活をしていける社会になるべきとも思うので、私自身の考え方も変わるようにしないとイケないと思っている。

・自由が良いと思う。その人の立場にならないとわからないので。

・気の毒、可哀想だと思う。

・全て自分の生き方なので、自分の人生は1回しかないから、意志のままに生きたらよいと思う。別に社会に悪影響を与える程の事ではない。

・ホモ、レズ、オカマ…大体、蔑視した表現だが、大人になるにつれ「いろんな人がいるんだ」と、そう呼ばれても堂々と楽しく生きていられる方々なら別にいいんじゃないかと思う。なかには、逆に悪用(偽装)し世間の同情をかう輩が出てくるので、取り立てて騒ぐことではない。各自が自然体ならそれでいいのではないかと？同性・異性関係なく、人間は互いに尊重し助け合って生きていくのだと思う。

・日本は島国である(大陸ではない)ことからか、閉鎖的というか多種文化が少ないような気がしている。LGBTについても他の先進国では、もっと早くに人権・結婚等が法律で認められていたり、いろいろな考え方の人が受け入れられているような気がする。日本でも早くそういった対応ができるようになればよいと思う。色々なジェンダーの方がいて当然なのだと思う。

・個々の単語はもちろん知っていたが、「LGBT」という4単語の略語があることは知らなかった。40年程前、実家の隣に、いつも男装をしている女性が住んでいた。親が「あの方は性的マイノリティ(当時はそのような言葉ではなかったが)だ」と差別的な口調で言っていたのを覚えている。その方は近所づきあいもなく、いつか自ら命を絶ったと聞いた。周囲の無理解の結果だと思う。私は仕事でよくヨーロッパに行くが、同性カップルが堂々と振舞っていて、周囲の人々もそれを普通のこととしてとらえているような光景をしばしば目にする。それに引き換え、日本では性的マイノリティに対する人々の理解が全くなっていないと思う。

・メディアで特集されていたり、この様な方たちが世の中にたくさんいて、それぞれ悲しい思い、苦しい思いをされているにも関わらず、必死に頑張っておられる姿を目にするけれど、もし、自分の娘や息子にカミングアウトされたらと思うと、それを受け入れる勇気が自分にはあるのだろうか？と思ってしまふ。そう考えたら実は自分はそのような苦しんでいる方たち、そういう現実を認めていないのではと思ひ申し訳ない気持ちになる。

・13人に1人しかいないのに、マイノリティについて社会がしっかり考えられるという事が素晴らしいと思う。それにもかかわらず、自分の周りに性的マイノリティだと思われる人が見当たらないという事は、まだまだ社会に認められていないということなのではないだろうか。

・外国のようにLGBTの方が堂々と公表できるように日本がなるにはまだ時間がかかるかもしれないが、LGBTの方々が過ごし易くなると(日常生活等)いい。

・基本的人権の確立の視点から。2020東京オリンピック開催までに、国、地方自治体他各種公的団体は、明確な対応を行うべきである。間違っても、ソチオリンピックのロシアのように振舞ってはならないと思う。

・人口減少が確実な日本において、7.6%の人たちを局外に置いたままでは国力、地域力の低下速度が増すばかりである。

・海外では、知られていて認められている事が多いが、日本ではまだ受け入れる人が少ないと思う。差別ではないが、カミングアウトする人も少ないのではないかと思う(芸能人になってしまえば別ですが)。私も周りにLGBTの友達がいるので特に何も思わないが、年輩の方のほうが受け入れなさそうなイメージだ。

・その人自身が素敵であれば、LGBTということで馬鹿にされたりはしないと思う。もっと多くの方がLGBTであることを隠さずに生活し、自らでイメージアップしていけたら良いと思う。何にでもマイノリティの人はいるので、全てを法で守ることはできない。法だけで守っても生きやすい社会になるのかは疑問。健康に生まれていれば、それに感謝して生きなければいけないのではないか。

・知人の場合も公にせず生活している。やはり本人としては、それを隠していないと何かしらの影響は少なからず受けるのだと思う。私はそういう人達に対して何とも思わず接する事が出来る。

・外国に比べれば同性愛者は少ないと思うが、昔から比べると知られるようになったし、有名人等が堂々と言っているのも、あまり抵抗がなくなっている気がする。性同一性障害は病気なので認知されるようになり、肩身の狭いおもいをする事が少なくなったと思う。

・今回のテーマである「性的マイノリティ」という言葉を初めて知り、携帯で情報を調べていくうちにLGBTの65%が自殺を考え、15%が自殺未遂を経験するという日本の現実を知り、ショックを受けた。先進国と言われる日本で、LGBTの人々が差別、偏見のない安心した生活を送る為には、我々一人ひとりが考えていかなければならない問題だと思う。

・偏見は大いにあるだろう。しかし、昔に比べたら比較にもならないほど変わっていると思う。一番の功績は、テレビに出演している「オネエ」タレントの存在が大きいと思う。そうした人たちが多数カミングアウトすることで漫然とあった偏見は減っていった様に思う。もちろん、根本はまだまだであろうが、少なくとも理解する裾野をまず広げた(この)アンケートの功績は大きい。性的マイノリティを理解することは、昨今、常に話題になっている認知症の事や、傷害のある方への理解につながる。杉並区がどういう施策を取るのかは知らないが、期待したい。

・普通に受け入れ、偏見をもたないようにしたいと思う。人それぞれ性格が違うように、様々な人がいるのだと考えている。

・日本では、まだまだ保守的な考え方が多いので、こういった問題を話し合うことは大切だと思う。(同様意見; 2件)

・他の人に迷惑かけている訳でもないのに、人権が侵害されるようなことはあってはならないと思う。個人の自由を尊重する世の中であってほしいと願う。

・社会的にもっと認められても良いのではないかと考えた。テレビやインターネットで取り上げ、身近なものに感じさせることにより、性的マイノリティの人々の人権が確立していくのではないかと思う。

・悩みは本人にしかわからない事が多いので、理解し合いながら生きていければよいと思う。

・生物学的な分類としての性別と、個人が自覚している性別が一致していても別であっても、その人自身が尊重されるべきではないかと考える。戸籍、婚姻に関しても、一人ひとりの思いや考えが反映される法・条例の整備を求める声が上がっているのであれば、時代に合わせて多様性を持ち、柔軟に対応していくこともグローバルな社会への一歩だと思う。誰かを好きになる時、たまたま男性⇒女性、女性⇒男性という組み合わせの連続であったため、自分個人のアイデンティティを男性を好むから女性、女性を好むから男性と言うように、固定概念から自己を認識しているのだとしたら、その規定から離れたら人権が侵害されるということは疑問。好きな人と一生を添い遂げたいという思いで婚姻するならば、従来の固定概念のみではなく、多様な概念で物事を見るべきではないかと考える。差別によって人権侵害されることの辛さ、苦悩の声に行政としても取り組む時であると思う。

・職場にそう思われる人がいて色々わさになっていたことがあった。別に悪いことだとは思わないし、隠れてこそそよりはっきりそうだとした方が本人も周りの人も楽だと思うので、自分がLGBTだと公言できる環境作りが大切だと思う。

・欧米ではLGBTに対する理解が拡がり同性婚を法制化する国々も徐々に増えつつあるが、日本でも遅まきながらやっと議論されるようになってきている。日本でもいずれ同性婚が法制化されるようになると思うが、何事につけ保守的な日本ではかなり先のことと思う。個人的には賛成で早く法制化されることを望む。

・性的マイノリティの人々がマイノリティを脱却するのは生物学的にも難しい。だけど、それを理由に性的マイノリティを迫害するようなことがあってはいけない。逆に性的マイノリティの人が弱者の立場を利用し強権を主張するのはもっといけない。結局は互いに「そういう人もいるのだ」という認識を持つことが大事なのではないか。マイノリティであることを声高に主張せず済む、偏見を持っても小さなもので済むよう、子供の頃から教育していくことが大切だと思う。

・医療従事者なので、そのような方と接する機会があり、私の周りでは差別的発言、人権侵害等は感じず比較的理解者が多く特別視していないが、一般社会ではなかなかそうもいかないのかなと思う。性的マイノリティ(LGBT)の人達も特別視される事なく普通に生きていければいいと思う。

・問11の「侵害」という表現に違和感を覚える。現在の婚姻制度に問題があるという事だろうか？人を好きになることは自由だが、国家として国民の系統的な量的安定を求められるなら、伝統的な婚姻制度にメリットを与えるシステムは必要だと思う。

・ご本人の思いは誰に求めることはできないし、好みの問題なので個人の自由で良いと思う。そのような方々が、侵害されることの無いよう配慮すべきだと思う。

・最近、多くの方がこのような情報を色々なところから得ているので、ある程度は理解しようという気持ちは持っていると思う。しかし、どんな事でもイジメや差別が起こることから、もっとも個人レベルが高くなり、単純に、自分以外の他人を傷つけることがないような世の中になっていくことが大切だと思う。

・身近にいない(気づかないだけ)ので、良く判らないが、他の国に比べ職種が限られてしまったり、オープンにすることで就職が出来にくかったり、生活する上で、不便な事が多々あるように思う。人々が好奇の目で見たり差別することが多い事も悲しいが、現在の日本の姿のような気がする。

・子どもの学校や幼稚園でも、もしかしたら性的マイノリティなのかな？という子はクラスに一人位いる。でも、その子の親が特に説明や公表の言葉を口にしなければ、私たち大人は見守るしかない。子ども同士の発言にも、へたに口出ししない方がいいかな？。「いろんな子がいるね」位にして区別なく仲良くしている。私には、人生経験豊かな友人が多いので、どんな人がいても「それもありでしょう」と大きく受け止められるようになった。友人にも国際結婚で男の人同士のカップルがいる。本人が隠さなければ、友人として仲良くする気持ちは変わらない。でも、隠したい気持ちも当然だと思うので、言われないうちは気づかない風に装うのも大人の対応かと思う。本人が悩んでいないなら一番だが、悩まずにみんなが「いろんな人がいるんだね」という社会になるとよいと思う。

・7.6%もの人が、性的マイノリティ(LGBT)ということに驚いている。このような方の人権が、侵害されていることを防ぐことは、存在を認識していない限り難しいと思われる。まず、これらの言葉を国民に知らしめることを始めるべきだと思う。

・性的マイノリティの人達に関して思うことは、人権が侵害されているというよりも、男女の夫婦よりも法律や条例等の面において控除やサポートがされていない事であろうか。マスメディアでは性的マイノリティの方の露出は増えてきており、世間の性的マイノリティの認知は高くなってきているのではないかな。渋谷区で同姓婚に関する条例が出されたが、この様な取り組みは広がっていても良いのではないかなと思う。

・社会的な指摘の前に、科学的(生物学的)統計的な「事実」に基づく指摘が、同じ人としてLGBTの人を理解し、社会全体で支えるという気持ちを促すからだと思う。(障害者支援法とのアナロジーで考えることはできないだろうか？)

- ・戸籍上の入籍は、この先検討は必要かもしれないが、パートナーとしての認定(結婚届・離婚届に相当)する制度はとても良いと思う。保険、年金の支払い、受取、扶養、住居の点でサポートできる体制は整えられたら良いと思う。
- ・当事者本人は我慢を重ねていることと思う。時間はかかるが、社会が認める方向に持っていく方法も考えていくべきかと思う。
- ・アメリカでは先日同性愛者の結婚が認められることになった。日本はそういう部分では遅れているので早く権利が認められるようにしたほうがよいと思う。
- ・性的マイノリティの方々の人権が侵害されることはあってはならないと思うが、一般の家族と扱いをすることは、それを利用した不正も出てくると思う。(例; 携帯会社の家族割引など)
- ・性的マイノリティの人権は守られるべきである。ただし、他の人に対して問題が発生するという状況にならないという前提は重要であると思う。
- ・かなり世の中に認められつつあるものの、少数派であるため、好奇の目で見られているのは事実である。自治体によっては認知する動きもあり、今後は法的にも整備されていく流れにある。
- ・自分の周囲にいないと思われるので、13人に1人は多いと感じた。社会の中で共生することに何の問題もないので、結婚や同居等基本的な人権は守られるべきだと思う。
- ・周りにいない、或いは気付かないので、当事者がどのような事象で困っているか、不愉快に思っているかがわからない。当事者の人権や感情は尊重したいと思うが、結婚という様な形で社会的な保証をすることには違和感を感じる。
- ・自分の周りに性的マイノリティの人がいない(気が付かない)ので、その人たちの人権が侵害されているのかどうか、実感としてわからない。(同様意見; 4件)
- ・人間みな平等とは言うが、LGBTについてことさら大々的に取り上げる必要はないと思う。
- ・個人として悩みは理解できるが、ひろく認めていくことに抵抗もある。
- ・身近にいないので実感がなく良く判らない。
- ・テレビ報道など最近目にするが、偏見や人権侵害はいけない事だと思うが、戸籍、子供や家族の在り方など考えなくてはいけないと思う。
- ・テレビで「オネエ」達が活躍したり、マンガや小説で「BL(ボーイズラブ)」というジャンルが確立されたりすることで、世の中の理解は広まっているように感じるが、理解が深まらないために「人権の侵害」の部分あまり進展しない印象。
- ・差別されるのはおかしいと思うが、今、マスコミでゲイの人がもてはやされ過ぎているような気がする。もっと、自然で良いのではないか? 娯楽番組でもてはやされ方はやや異常な気がする。
- ・7.6%が、例えば40%になったら「マイノリティ」とは呼ばなくなるのだろうか。
- ・多様性について寛容であるべきと思う。(同様意見; 2件)
- ・LGBTの方に対して、どこからが人権侵害なのかわからない。一般的に、普段、相手がLGBTではないという前提(思い込み)で話をするが、それによっていたく傷ついたという人権侵害になるのか。そのあたりの微妙なところをどうとらえていいのかなど、専門家やそのようなことで悩んでいる方の話を聞く機会があればいいなと思っている。人間として魅力的な人であれば、LGBTとはまったく関係なくつきあっていきたいので。
- ・自分は、あてはまらないので深く考えた事が無く何とも言えないが、TVなどで同性同士の結婚を認めるとか認めないとか良く耳にする。設問11では、その立場であったと想定した時に「どちらかといえば、侵害されている」としたが、あてはまらない自分としては色々な事を法的に認めてしまうと矛盾が出てきて更に大きな問題となる様な気がする。問題を抱えている人には申し訳ないが現状維持とせざるを得ない気がする。非常にデリケートで難しい問題だと思う。
- ・LGBTの方々がその事実を隠していないと生きにくい一方で、通常の方々からすると「LGBTの方々は得体が知れない」という状態ではないかと思う。今後は「未婚である」、「結婚していても子供がいない」等と同程度に一般的な存在として理解されるとよいのではないか。(どうしたらそうなるか行けるかは、簡単に思いつくものではない。)
- ・自分自身は性的マイノリティ、LGBTではないし、周りにもそのような人(そうではないかと思われる人)もいないので、身近なものとして考えたことはなかった。13人に1人ということは、もしかしたら自分の身近にも本当はそのような人がいるのかもしれないと思うと、自分はどうしたらよいかわからず戸惑いを感じた。
- ・自分の周囲にLGBTだと表明している人がいないため、性的マイノリティの人々がどのような生活をされ、周囲の人々がどのように接しているか等の実態について知識がなく、実感も持てない。ただ、性的マイノリティの人々が偏見や差別の対象になりがちであろうことは想像できる。このため、大人か子供かを問わず、性的マイノリティの人々に関する正しい知識や人権の尊重等について教育、啓発をしっかり行っていく必要があると思う。

- ・「設問: 1 あなたの戸籍上の性別をお答えください」戸籍上という意味を考えさせられる時代なんだと思った。
- ・おそらく昔からあったのでしょうか、近年このように公になると、制度なども含めて差別なき社会へ変わっていかないといけないのではないかと。
- ・正直、周りにそのような方々が居ないので13人に1人という人数に驚いたと同時にあまり身近に感じられない自分がいた。そのため、侵害されるような場面には遭遇していないが、世間的には好機のみで見られてしまう事が多いだろうと想像する。この様なご時世なので、人それぞれ色々な形があっても良いのかな？と感じる。
- ・全ての人格は尊重されるべきだと思う。一方で、実際に性的マイノリティ、LGBTの方と会ったことがない(もしくは、わからなかった)ため、実際に目の前で会った時に、自分がどのような反応をするのかわからない。冗談やからかいの言葉は、言わないと思うが…。
- ・性的マイノリティの話題が新聞でもよく取り上げられるようになったが、婚姻や相続など権利として認められていないことも多く、マイノリティを守るための法律改正が社会に受け入れられるにはまだまだ理解が低い状況だと思う。
- ・子供の頃は”女みたい⇔男みたい”なことをするな／”男らしく⇔女らしく”なれ…が周囲に自然に、嫉妬の一環にあった。少し前から性的マイノリティを隠さない人たちが表社会でアピールし始め、現在は、隠しきれない人も含めて、それを売りにしているようなマスコミの扱いにも憤りを感じる。何をもち、どの程度ならば…正常／障害／病気なのかわからなくなってきた。特異体質という言葉もある。子孫は未来への継承であろう。マジョリティになってしまったら、人工授精で機械的な人類継承？恐ろしく、つまらない。個人の問題ではなくなり、社会問題のテーマになるのだから、そうなるまでの社会制度・規範や設備の変更にかかる費用、つまり税金をUSAは計算しているのだろうか？予測しても公表していないのか？
- ・社会生活の中での不自由さは、どんな人でもあってはならないと考える。ただ、婚姻については憲法で「両性の合意に基づく…」とあるように、まだまだ論議が必要だ。渋谷区の例のように、パートナー制をとるなど不自由さを改善する手段の採用は望ましいが、子どもの問題や改姓についてなど時間もかかると思う。一方で職場における待遇について、以前より理解が進み、性的マイノリティの人々だけが不合理をこうもっている訳ではないと感じている。
- ・個性として扱うべきか病気として扱うべきか、解釈によって対応も異なってくると感じた。
- ・もっと広く世の中に知ってもらわなければならない。
- ・日本国内ではまだ十分に理解されていない。病人を見る目で見られる。USAロス市のように、もっと開放的にならないといけないのかもしれない。海外からの旅行者、移住者が国内でも今後増えたら、時間がかかるがもっと理解されるようになると思う。
- ・性別やそれに関わる考え方や感じ方によって差別や偏見を持たれることは不平等だと思う。テレビやなかでオカマタレントがこれほどまでに受け入れられた今日でもまだまだ変わらない空気がある。行政や制度が後押しし、その多様さが当たり前になれば、より皆にとって生きやすい世の中になるように思う。
- ・病的な面も含めて、人間にはいろいろなタイプがあると思う。共存できれば良いと思う。
- ・LGBTがそれぞれの英語の頭文字を組み合わせた用語であるということは、このアンケートに回答することで初めて認識した。
- ・20年前に比べれば、世間のLGBTに対する理解は進んできたと思う。
- ・日本での認知度がほとんどないと思う。
- ・良く判らないというのが正直なところだが、そういう人達の人権が侵害されないことを願う。
- ・今では、カトリックのローマ法王さえも寛容な見解を示している。次々に法的な制約も外されていき、同性婚のニュース、写真もメディアで良く目にする様になった。とても、自然な流れで喜ばしいことだと思う。性的マイノリティ、LGBTの人達を当然のこととして受容できる社会になればヘイトスピーチをうけるその他の少数者に対しても、不当な差別が糾弾される社会になると思う。
- ・先日、代々木公園のイベント(LGBT)をTVで観て「LGBT」を詳しく知った。最近増えたのか、表現(カミングアウト)が増えたからなのか、理解してはいるものの難しい時代なのだと思う。
- ・最近、テレビのニュース等で性的マイノリティLGBTという言葉をよく耳にするし、実名で現状を訴えている方も目にするが、身近に感じられるとは言えないので、もっと理解できるような知識を得たいと思う。
- ・はじめて聞く言葉だった。色々な人がいていいと思うが、“知る”ことから始めることが大切だと思う。からかいや偏見は性的マイノリティ、LGBTのことをよく知ることで無くなっていくと思う。
- ・理解する必要はないと思うが、差別があってはならない。しかし、その差別の定着もとかくヒステリックなものになりがちなので、ほどほどに考えていくべき。

- ・町を歩いていてもテレビをみても、自由な社会になったと思う。
- ・人それぞれの考え、行動は全く他人にとってはわからない部分であり、ある意味少し恐いかもしれない。
- ・自身はもとより、友人や知人に性的マイノリティの人がいないので正しい回答が出来ない。ニュースによると欧米では理解が深まっているということだが、日本も当然そうすべきである。
- ・性的マイノリティ、LGBTの方は、最近テレビを中心に特に露出しているように思う。理解があるというより、ちょっとした見世物小屋のように面白半分に使われていて、ちょっとな…と感じる。また、こういった人たちへの配慮は、進み過ぎると、今度は一般の人が居心地悪くなってしまわないかと思ったりするのだが。
- ・最近ではテレビにてタレントなどで多く活躍していると思う。メディアの情報だけだと、性的マイノリティの方々が差別されているとはあまり感じない。
- ・13人に1人が性的マイノリティの当事者であると知り、自分の知人の中にもおかしくないのだと思ったが、周りの人からそのような話を聞いたことがないので、不思議な感覚を覚える。もしかしたら言いつらいといった事情もあるのではと考えると、当事者の心の負担を心配してしまう。
- ・正直自分のなかに性的マイノリティ者に対する偏見はあると思う。多様な生き方が尊重されるべきだとは思いますが、理解しがたい。
- ・これらの言葉は初めて聞いた。先日テレビニュースで、外国人のレズとゲイの話題を見たが、日本人にもいるのだろうか？私にとっては、別世界のような気がする。
- ・生物学的にはおかしな存在であると思っている。一定割合にそのような人物が出てくるのもやむを得ないが、生物学的、数学的には多すぎる数値だと思われる。障碍なのか、単なる性的嗜好なのか判断が難しい。性病も心配であるし、一般人の生活に迷惑が掛からない有り様を探してほしい。
- ・身近に、「性的マイノリティ」と思われる人がいた事が無い為か、何がどう問題なのか今一つピンとこない。
- ・欧米では同性同士の愛情を容認していると聞いた。私自身にとっては、全く知らない世界なので評価できない。
- ・性的マイノリティを売物にする芸能人などがいて不愉快である。
- ・自分にはなかなか感覚として理解できず、頭で笑っていてもすんなり受け入れることが難しいことだなと思う。知らないうちに彼ら(性的マイノリティの人々も)を傷つけているのでは？と思う時もある。
- ・性的マイノリティの方が存在することは、いろんな事情があり、本人のせいではないことが多いので、差別することはあってはならないと思うが、私は子どもを養子で育てたりすることは反対である。子どもにとって父と母が存在しないことは良くないことだと言わざるをえない。子どもが被害者になる可能性があることは容認できないからである。性的マイノリティの方の事を差別することがあってはならないと思いつつ、私の本音を発言すると、生理的には受け入れにくいと思うが、だからと言って差別をしたりしてはいけないと思う。結婚を認めたりする国や自治体も出てきているが、以上の理由から絶対に反対である。
- ・時代が進んで生き方が多様化してきたからと言っても、このような状況が何の違和感もなくまかり通ってくるとおかしな世の中(社会)になってしまうと思う。私個人としては、到底理解できることではない。
- ・実際、性的マイノリティの人にはあった事がなく、現在60代で16年前に大学を卒業したが、授業で習ったこともない。同性に対して尊敬したり、そのようになりたいとは思いますが、性的マイノリティの人については、なかなか理解できかねる。
- ・自分の中にない感覚・感性であり、違和感を覚える事を認めない。こうしたものが周囲にあまりなかったという非・既視感に由来するのであれば、教育の場であれ、或いは行政であれ何であれ、事実を事実として正しく伝える試みが、現状で根強く当事者を苦しめているであろう差別を(時間がかかるとしても)軽くしていくものと考える。
- ・問8について多いとか少ないとかをどう感じたかを述べるのは少し違うと思うのでお答えできない。区で性的マイノリティ、LGBTについて取り組むのは良いことだと思うが、区政モニターだけでなくもっと広く多くの人から声を聞くべきだと思う。

・自分自身がバイセクシャルなので、特に偏見なども学生時代からなかった。自分がB=バイセクシュアル(学生当時はL=レズビアン)であったため、性的マイノリティの人々も心を開き易かったのか、周りには沢山のLGBTがいるし、仕事も芸術方面だったためか、理解のある人が多く「侵害されている」と感じたことはない。むしろ生きやすい。ただ、生物としての本来の性を正しく本能的に受け止めながら生きるという点では、LGBTの人達は皆、「私は違っているな」と自覚しているので、自己防衛的に自分から話したり(ファッションとしてGを使ったりする偽物以外)する人は少ないと思うので、そういう世の中(=偏見、からかわれる環境)ではあるのだと思う。

・動物としての本能、欲として異性を好むことが自然の摂理であって、同性愛に目覚めたりする人は、幼少期などに何かしら精神的にダメージが残ることがあったりしたのかな?と思う。例えば、親からのDV、親の離婚、夫婦喧嘩等。今現在、私は幸せな家庭を築き子どもたちもすくすく育っている。将来、その様になりそうな気配すらないが、実際、私の友人は夫婦間のDV、母親が子どもを連れて、シェルターや実家を行ったり来たり、DVの夫逮捕、離婚、あげくに夫側が子どもを引き取り父子家庭と修羅場のような生活をしている人間がいる。実際、その家の子どもは本当に可愛そう。11歳になる長女なんかは明らかに精神的にダメージありそうだし、知能の成長もかなり遅れているらしい。こういう幼少期の悲惨な体験が、結局将来、「私の親みたいにくんかばかりするのは嫌」という気持ちから、同性に愛を感じるようになるのかなと思う。

・それらに関して特に興味はない。意見はない。(同様意見;2件)

・頭では理解できても、心から理解し生活できるかは不明。やはり違和感を感じてしまうと思う。

杉並区や行政に対する意見

・もっとLGBTについて理解してもらえるように国や地方自治体がセミナー等を開催すべきである。

・公的な制度は認めていく方が良いと思う。(婚姻等)それによって、マイナス要素が生じるとは思わないから。

・カラダの性別、心の性別、恋愛の対象となる性などは男女の別だけと考えられがちだが、実際はグラデーションのようになっており多様なものなのではないか。杉並区が多様な性のあり方についてポジティブなアクションを行うことには大賛成である。性的マイノリティ、LGBTなど多くの当事者の方たちの話を直接聞き、できれば一緒に行うのが良いと思う。用語一つをとっても意味や使い方、どのような感じ方をするか当事者に確認した方が良い。近い将来渋谷区のように同性のパートナー証明書が杉並区からも発行されると良いと思う。多様なあり方が自然なこととして受け入れられる町は誰にとっても住みよく魅力的な町だと思う。

・閉鎖的な日本で当事者達がカミングアウトすることは本人の不利益になるので、行政が社会的に受け入れる体制や差別視しないように取り組むべき。

・性的マイノリティ、LGBTは、諸外国(とくにアメリカ)と日本では意味合いが異なると思う。(大雑把だとは思いますが)個人主義をベースにして、その中で考えるのか(「マイノリティ」ということば自体そういうものだと思う)、家族をベースにして考えるのか。「家」制度はなくとも、「嫁」ということばがあたりまえに使われている社会で、性的マイノリティは単なる好き勝手の問題に置き換えられているのではないか。渋谷区の条例は、実際に見たが、要件が非常に厳しく、ほぼ婚姻同様の考えをベースにつくられている。むしろ、あれは性的マイノリティの否定なのではないかとも感じられる程だ。(なぜか、そうした要件は報道ではほとんど触れられない)。性的マイノリティが受け入れられるためには、まず、養子をふつうに受け入れられる家族環境なり、家族というものに対する社会の理解が必要ではないか。私としては、政策の優先順位としてはそちらのほうが高い。闘える人は自分で闘うべきでしょうから。

・人権先進国や国際連合などの公文書では「マイノリティー」「少数」といった言葉を使わないといった流れを杉並区も念頭に置いた方が良いと思う。自分の子どもの頃は、こうした問題に対し「偏見」や「蔑視」が当然にあったが、教育と啓蒙次第で矯正できるという体験もしている。杉並区が率先して、教育・啓蒙に尽力されることを期待する。

・渋谷区のパートナーシップ証明のような取組を杉並区も検討してほしい。(同様意見;3件)

・渋谷区のような条例をもっと地方自治体単位で制度化していくと良いと思う。杉並区もしかり。

・渋谷区では同性のパートナーと一緒に同じ家で暮らすときに区に届出をすると様々な法的なメリットがあると聞いた。杉並区では、渋谷区と類似の制度を考えているのか知りたい。

・渋谷区と同姓パートナーシップ条例の成立やアメリカでの同姓婚の最高裁判決を鑑みると、いずれは杉並区も性的マイノリティの為に何らかの対応をせざるを得ないと思う。この際、懸念するのは「病氣」。性的マイノリティに寛容な対策を取ることで、地域に性的マイノリティの人数が増え、エイズ等の治療の難しい病氣が広がるのが怖い。そこで杉並区には、諸々の病氣に対する事前調査及びその公開を求めたい。

・親しい友人がゲイで家族とは疎遠。恋人はいるが、入院した際も家族ではないので看護やつきそいが許されない事があり不便そうだった。同性婚は難しくても、ゲイカップルがお互い家族と同等程度の近親者と証明できるような公的な仕組みがあれば良いと思う。

・同性婚について渋谷区の事例やアメリカ最高裁の判決などここ数ヶ月で良い知らせが続いているが、遅すぎた感じもする。夫婦別姓や事実婚を整備して「世帯」単位の考え方を行政が変えるべきと思う。「個人」でなく「世帯」による「管理」や「制度」から「自由」になり「個人」として安全安心に暮らせることこそが性的マイノリティやLGBTが生きやすい社会、ひいては誰もが安心して過ごせる社会ではないかと考える。しかしながら現実社会ではそのようなことはなかなか実現しないであろうから、とりあえず制度から整備していくのが現状として行政がマイノリティを守るためにできる次善の策かと考える。「性的マイノリティ」は身近になってきていると思う。当たり前になって欲しい。

・人はだれしも自分が幸福だと実感できる人生を送る権利を持つべきだと信じているので、杉並区でも渋谷区のように行政の観点からこの問題に取り組む体制を目指すのは好ましいことだと思う。

・周りにいない、或いは気付かないので、当事者がどのような事象で困っているか、不愉快に思っているかがわからない。当事者の人権や感情は尊重したいと思うが、結婚という様な形で社会的な保証をすることには違和感を感じる。そういう人がいないので何とも言えないが、時代に変化するので、行政もそれに合わせた対応をお願いしたい。

・LGBTの権利(最近では同性婚)を擁護することは人間として当然のことである。杉並区でも各種制度の充実を図るべきだと考える。

・性的マイノリティの方々(7.6%)が多い少ないではなく、「いる」ということが重要ではないだろうか。それにも関わらず、これまでその存在が見えなくなっていた。このことを踏まえ私たちの意識も変えていかなければならない。例えば、セクシュアルハラスメントと聞くと「女性」「男性」間を想像することが多いだろう、しかしそれは異性愛を前提としている。私の友達(「男性」)は「男性」からセクシュアルハラスメントを受けてつらい思いをしたことがあると話してくれた。同性間には起きないと決めつけてはいけない。また他の自治体がパートナーシップ条例を検討しているように、同性間だからといっていろいろな権利が認められないことについては検討する必要がある。大人だけではなく、悩んでいる子どももいることも知ってほしい。文部科学省から性同一性障害の児童・生徒に対する対応の指針がでたが、全国的に実践されている校は少なくさらには未だに男女別名簿が使われている学校が区内にあることはこれに逆流していると言えるのではないか。杉並区はどこよりも早く、男女共同参画都市宣言をしたのであるからもう少し積極的な取り組みが必要だと思う。せっかく区内にある男女平等センターも性的マイノリティやLGBTの支援の役割も担ってほしい。しかし、アンケートがとり始められたことはとても嬉しく思う。偉そうなこと申して申し訳ないが、友達の話や自分の体験を踏まえると真摯に受け止めて欲しい気持ちでいっぱいである。

・日本においては、性的マイノリティに対しての各方面での対応が進んでいないのは事実であると思う。婚姻を代表として生活面で制限はあるだろうし、カミングアウトできない環境の中で本当の自分を押し殺しているなど、水面下で苦しんでいる人々は少なくないであろう。つまり、我が国で必要なのは法律に担保された枠組みである。保守的ながらも相当に多様化した日本においては、デリケートな問題だからと言って、まずは知ることから、というように慎重にことを積み重ねるよりも、速やかに行政レベルでの制度作りが求められる。どちらかと言えば若者が敏感に反応する 이슈でもあるので、積極的な政治参加を促すという意味でも議論をする意義のある問題であると思う。

・性的マイノリティの人たちにも基本的人権は保障されるべきであると考え。杉並区においても、性的マイノリティの人たちの声を真摯に受け止め、当事者が基本的人権を侵害されていると感じるのであれば、その状況を少しでも改善できるよう地方自治体として行い得る範囲内で努力をしてほしいと考える。合わせて、社会の中で性的マイノリティの人たちに対する差別や偏見が無くなるよう地方自治体の発信力を生かして啓蒙活動に努めていただきたいと考えている。

・性的マイノリティの権利を保護する前に、一般人の最低限の権利を守るほうが区民の為になる。

平成27年度第1回区政モニターアンケート
集計結果報告書

平成27年8月発行

登録印刷物番号

27-0050(1)



杉並区役所

総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1

TEL 03-3312-2111(代表)